

渚上市長 1 期目最終年度スタート

「敦賀のまち刷新」

市長就任以降、原発交付金など税収の先細りは避けられず事業見直しを徹底し、経費圧縮を敢行してきた渚上隆信敦賀市長。1 期目最終年度は、5 年後の北陸新幹線敦賀開業に向けて3 年間ため込んできた力を「敦賀のまち刷新」に大いに発揮。停滞から一気に刷新へ…。今、敦賀のまちが大きく変わろうとしている。

渚上隆信敦賀市長



大型プロジェクトに 向け力をため込む

平成27年4月、現職勇退に伴い、前回の市長選で次次に終わった渚上隆信氏が、68年ぶりの新人対決を制し敦賀市長に就任してから3年が経過。今年度は渚上市長1期目の最終年度となる。

これまで原発交付金により他市町もوراやむ潤沢な財政を維持してきた敦賀市も、敦賀原発1号機廃炉決定や原発停止の長期化により減収を余儀なくされ、さらに高速増殖炉もんじゅの廃炉の影響で、市税や電源3法交付金が見細りは避けられず、渚上市長は就任以降、「貫して事業を見直すなど経費圧縮を敢行、行政の棚卸し」に力を注いできた。「一部の市民からは経済活性化に大胆な投資を望む意見もある中、北陸新幹線敦賀開業などに向け十分な投資準備

を進め、市庁舎整備や小中一貫校建設などの大型プロジェクトに向けて力をため込んできた。いよいよ渚上市長の敦賀まちづくりが本格的にスタートする。

まちづくり国が支援 景観刷新モデル地区

北陸新幹線の敦賀開業が5年後の平成34年に迫り、新幹線開業を同市の発展に確実に結びつけるべく、新幹線駅前広場や駅周辺アクセス道路等駅周辺の整備計画を着実に進め、敦賀駅についても乗換利便性の確保や新幹線駅舎のデザイン等の諸課題に積極的に取り組む。

併せて、新幹線開業を見据えた受け皿づくりを進める中、今春、地域資源を生かした活性化が見込まれる地区を指定する国土交通省「景観まちづくり刷新支援事業」のモデル地区の一つに選定された。渚